

授業科目名	平和学		授業コード	1GGS00901	
授業科目名(英語)	Peace Studies				
担当教員名	河上 暁弘				
授業科目区分	共通教育科目-教養科目-社会と経済				
履修区分(卒業条件)	選択	免許・資格			
配当年次・学期	1・2・3・4年-Ⅱ期(集中)	授業形態	講義	単位数	2.0
本授業の到達目標(本授業で学生が身につけるもの・身につける力)					
本講義は、現代の世界と日本における平和の理念と現実を実現するための課題を探るものです。そもそも「平和とは何か」「なぜ戦争が起きるのか」「どうしたら戦争や暴力を減らすことができるのか」といった様々な論点を、あるべき政治や社会のあり方、現実政治の置かれた状況等について、多様な視点から(特に反対意見や少数意見から十分に学び)真摯に考えることがこの科目のねらいです。そして、それらに関する自らの学問的見解を、論理的・説得的に表現できるようになることが到達目標です。					
本授業の概要					
「平和」とは何か、現代はいかなる時代か、戦争や暴力をなくすため・減らすために必要な条件とは何かということなどを考えたいと思います。本年度は、戦後日本を主としてとりあげ、平和に関する議論の変化と歴史的な背景を説明します。その上で、現在の平和に関する論点を明らかにし、今日我々がいかにして平和を創っていくべきかについて考えていきたいと思います。					
授業計画					
第1回	「平和」とは何か				
第2回	現代はいかなる時代か—「地球時代」における平和課題				
第3回	近現代世界の平和思想—フランス革命からカントへ				
第4回	近代日本の平和思想—国権と民権				
第5回	戦後日本の平和理念(1) 「平和憲法」の誕生と「平和国家」				
第6回	戦後日本の平和理念(2) 日本国憲法の平和主義の理念				
第7回	戦後日本の平和の現実(1) 日米安保体制と日米地位協定				
第8回	戦後日本の平和の現実(2) 沖縄の戦後史と平和				
第9回	戦後日本の平和の「構造」— 「豊かさ」の構造と陥穽				
第10回	冷戦後の世界と日本—新自由主義と軍事化				
第11回	核・原子力と平和				
第12回	地方自治と平和—「国家安全保障」と「市民自治型平和保障」				
第13回	平和の政策論(1) 「国」を守るとは何か				
第14回	平和の政策論(2) 戦争違法化と世界連邦論				
第15回	平和に関する残された課題				
授業時間外の自己学習					
文献・資料などを深く読み込み、多角的な観点から論点を探り、自分の言葉で正確に説明できるよう心がけてください。					
本授業に関連する参考書・参考資料					
河上暁弘『平和と市民自治の憲法理論』(敬文堂、2012年)					
河上暁弘『日本国憲法第9条成立の思想的淵源の研究』(専修大学出版局)					
テキスト					
レジュメその他の資料(紙媒体)を講義時に配布する。すべての資料をよく読み込むこと。					
学習成果の評価基準				備考	
授業参加の態度(コメント用紙など)		20%	一日分の講義終了後にコメント用紙を提出。講義内容の理解度や各自の課題設定態度の積極性等を見ます。	集中講義では、欠席回の分の学習を自己のみで行うことが困難ですので、基本的に全てに出席できる方のみ受講してください。	
筆記試験(持ち込みなし)					
関連する科目				連絡先	
学生へのメッセージ(履修要件など)					

平和と何でしょうか？ 戦争がないこと—それも確かに大切なことです。しかし、たとえ戦争がなかったとしても、特に近年の日本において、「社会は甘くない」、「お前など役に立たない」「社会に役に立つ人間になれ」などと「強者の論理」で切り捨てられ、<いのち>や<くらし>や<自分らしさ>が踏みにじられ、生きていることがつらいと感じられる事例が山ほどあります。実は、これも全て「平和」に関する問題です。「平和」とは（「今の日本は平和だね」みたいな）現在の「状態」を指すものではなく、日々不断に創造していくものということだということが極めて大切なポイントです。

本講義は、現代の世界と日本において平和の理念と現実を深く考え、平和を実現するための課題を多角的な視点から探るものです。

本講義は集中講義にて行われる予定です。そのため、欠席回を自習のみで補うことが難しいので、全講義を受講できる方のみ受講してください。

授業時間中のパソコン・携帯電話の使用を基本的に禁止します。教員の目を見て話を理解した上で、自らメモを取り、整理する能力が大学生にとって身に着けるべき最重要の能力であると思われるからです。